

令和7年度 児童養護施設静岡ホーム事業報告

「キリストの愛」と児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、倫理綱領等に則り、すべての職員が一体となって「子どもの最善の利益」に適うよう、児童の権利を擁護し、自立に向けた支援計画を策定して、子どもたち一人ひとりが個性豊かでたくましく思いやりのある人間として育ち、自立した社会人として生きていくことができるよう、多様な社会経験を積める機会を提供し、養育・支援を行った。

児童養護施設では、子どもたちが「できる限り良好な家庭的環境」において生活できるよう、小規模施設4棟を設置・運営するとともに、本体施設の小規模ユニットケアに向けた大規模修繕工事を実施し、令和8年3月に竣工した。

児童自立生活援助事業所(Ⅱ型)では、措置解除後の子どもたちの大学等への修学を支援するため、定員を2人から4人に増員した。

1 養育・支援

(1) 入退所児童の状況

何らかの事情により家庭での養育が困難又は受けられなくなった子どもの養育は、平成28年改正の児童福祉法において「家庭養育優先原則」の考えが打ち出され、「家庭における養育環境と同様の養育環境（里親家庭での養育等）」が優先的に考慮されることになった。児童養護施設に対しては、「できる限り良好な家庭的環境」としていくための地域分散化、小規模化が求められており、施設で暮らす子どもの人数は減少傾向にある。

こうした中、今年度は、7人が入所し、5人が退所、月平均の在籍児童は46.1人で、定員（62人）に対する充足率は74.3%であった。

＜入退所児童の状況＞

（単位：人）

区分	入所児童					退所児童				
	家庭	乳児院	他施設	里親	計	家庭引き取り	自立	グループホーム	Ⅱ型移行	計
人数	3	1	2	1	7	1	1	1	2	5

＜在籍児童数の推移＞

（単位：各月初日、人、％）

年度		30	1	2	3	4	5	6	7
在籍児童数	延人数	770	784	742	706	722	643	614	553
	月平均	64.2	65.3	61.8	58.8	60.2	53.6	51.2	46.1

(2) 一時保護児童の受入れ

児童相談所における虐待対応件数の増加を背景として、児童相談所一時保護所は満床に近い状況であり、本施設では児童9人、延べ79日の委託一時保護を受け入れた。受託日数の平均は8.8日で最長は31日であった。

また、一時保護児童の「教育を受ける権利」を保障するため、可能な限り学校への送迎を行った。

(3) 食生活の向上

献立に関する希望や感想など、子どもたちの声を取り入れ、新メニュー開拓への参考にしたり飽きの来ない献立作りに努めた。また、おやつやお弁当のおかずについてもアンケートを実施し、可能な限り子どもの希望に沿うメニューを提供し、体調不良の児童には、個々の体調に合わせた食事提供を心掛けた。

嗜好調査は、季節食や日々の食事での課題等を踏まえた上で実施し、ルールやマナーについて子どもたちの考えや思いを汲み取れるような設問を作るなど工夫を凝らして年2回実施した。

地域小規模児童養護施設（分園型小規模グループケアを含む）においては、施設ごとに献立を作成し、子どもが職員と一緒に買い物や調理を行うなど、食生活の向上に努めた。

また、園内の畑では野菜選びから子どもの希望を取り入れ、ジャガイモ、ラディッシュ、ブロッコリー、キャベツを育て、毎日の水やりを通してその成長過程を子どもと共に見守り、収穫し、頂くことで食への興味が広がるような機会を設ける等、食育に努めた。

なお、食生活委員会では各グループでの調理体験（もぐもぐクラブ）を実施した。経験の少ない本体児童は買い物体験を取り入れ、食材購入から実施することで、子どもの食に対する知識や興味関心の向上を図った。取り組みの様子は“もぐもぐ通信”として各グループに配布し、互いのグループの様子を共有できるポスター形式のツールを作成した。

(4) 衣習慣の習得

衣服は、清潔で身体や季節に合うものを選択するとともに、好みや個性を大切にしながら衣服を通じて適切に自己表現できるよう支援した。

また、購入には職員と一緒に出かけ、年齢や一人ひとりの子どもの状態にあった整理の仕方やTPOを意識した衣習慣が身につくよう支援した。

(5) 住環境の整美

住環境を整えるため、日々の掃除に努めるとともに、子どもたちと一緒に清掃する機会を増やすことで職員だけでなく子どもたちにも清掃の大切さを体感する機会を設けた。

また、各グループの家具や壁等の破損箇所は、速やかに修繕することで常に心地よい環境を整えた。

(6) 性に関する教育

安心・安全な施設生活を目指し、自立・共生の力を育むため、生（性）に関する正しい知識や関心が持てるよう、性教育委員会（かえでの会）を中心に「プライベートゾーン、プライベートエリア、回避行動（ノー・ゴー・テル）」を基本とする年齢別の学習会を延べ15回実施した。（個別対応も含む）

(7) 子どもの主体性を育む余暇活動

社会への適応力を高め、豊かな人間性を育てるため、子どもたちの意向を踏まえた園行事を企画し実施した。

クリスマス祝会や節分豆まき、夏のキャンプ、冬のスキーなど季節に合わせた行事を実施すると共にレストランでの食事会をグループごとで実施し、外食の機会を提供した。

各種団体の招待・訪園行事は、Ｊリーグの清水エスパルスや安倍川花火大会など、スポーツや文化に触れる機会を持ち、子どもたちが楽しみながら感性を磨き情操を育むよう努めた。

また、情緒を安定させ自立を支援するため、ピアノ教室と手芸教室を開講し、発表会を開催するなど、表現活動の場を設けた。

(単位：件)

園企画行事	招待・訪園行事	県養協行事
53	24	4

(8) 学習・進学支援

基礎学力の向上と学習習慣の定着を図るため、主に小学生を対象に個々の能力に合った公文式学習に取り組んだ。目標を設定することで、主体的に学習に向かえる児童が増え、日々担当職員に学習の様子を見てもらうことよって、自己肯定感が育まれ自信に繋がった。一部児童については、中学進学後も公文学習を継続して行い、作業力や継続力を身に付け、進路について考えるきっかけとしている。

また、学習及び公文担当職員が定期的に各グループの子どもたちの学習状況を直接確認し、時にグループへ支援に入ると共にアンケート方式で意見を聴き取り、学習進度の調整や意欲向上に繋げている。なお、今年度後期より月に１度学びの会（学習会議）を開催し、各グループの公文式学習の状況把握や支援方法の共有の機会を設けた。

さらに、公文法人部と協力し、３ヵ月に１度の静岡地区会への参加や他施設見学を通して様々な取り組み方について学び当施設の取り組みに生かしている。

こういった取り組みに加え、学習ボランティアの活用や中・高校生の通塾により、大学等の高等教育への進学意欲が高まっている。

(9) 心理的ケアの充実

愛着形成や自己肯定感の向上を図るため、グループセラピー、児童相談所嘱託医による心理的・医学的知見を現場へ伝えるスーパーバイズを実施した。

また、個別のケアが必要な児童については、静岡市児童相談所におけるプレイセラピーや園内の個別面接で対応し、それ以外の児童は生活場面の要所で心理的知見に基づく関わりやアドバイスを通じて日常的にケアを行った。

(単位：回)

スーパービジョン	グループセラピー	グループ心理療法	プレイセラピー	個別面接
11回（毎月）	6回	19回	延 108回	延 137回

(10) 自立支援の充実

○ 入所児童の自立支援

小中学生を対象とした CCP（キャリア・カウンセリング・プロジェクト）を行い、『こんな大人になりたい・将来こんなことをやってみたい』といった将来に対して肯定的な展望を持てるよう支援した。

また、施設退所後に自立を予定している高校性を対象に、一人暮らしを疑似体験させることで退所後の生活をより具体的にイメージできるよう、自活訓練を実施した。

○ 退所児童へのアフターケア

施設を退所し自立する児童には、行政手続きや金融機関の口座開設に同行し、自立した児童には、定期的な電話やメール、家庭訪問により生活状況を確認し、生活上の相談・指導を行うことで社会的自立を支えた。

○ 静岡ホーム自立支援基金による支援

入所児童の就職又は大学等への進学若しくは修学に際し必要な経費に充てるため、寄付金を原資として静岡ホーム自立支援基金を設置している。また、預貯金がなく、入学金、授業料等の入学時納付金等の納付が困難な者に対する無利子貸し付けに関する規定を設けている。

対象児童	支援項目	件数	支援内容
入所児童	ソーシャルスキルアップ	11	・掃除洗濯等生活支援（通年支援） ・調理体験（通年支援） ・自活訓練支援（高校生 4 人・1～2週間/人） ・アパートの内覧同行、契約関係書類の作成支援 ・銀行口座開設手続き同行
	自立支援教育	17	・CCP（キャリア・カウンセリング・プロジェクト） ・職業相談 ・自立支援講座 ・卒園生の食事マナー講座 ・みちしるべ会員と子どもとの顔合わせ ・おしごとフェスタ
退所児童	電話・メール	410	・近況確認 ・相談援助（体調不良、人間関係、近隣トラブル、税金、各種行政手続き など） ・生活支援（通院同行、引越し・部屋掃除手伝い など） ・就労支援（関係機関との連絡調整、就労継続のための職場訪問、離職手続き など）
	来園面接	92	
	職場訪問	0	
児童自立生活援助事業Ⅱ型	電話・SNS	205	・近況確認 ・家計簿の確認による金銭管理状況の把握 ・奨学金、他給付金の書類作成指導や入金手続き ・相談援助（体調不良、人間関係、近隣トラブル、税金、各種行政手続き など）
	面接	20	
計		755	

2 家族への支援

児童の早期家庭復帰や親子関係の修復・再構築に向け、家庭訪問や親の仕事の都合・家庭状況に合わせた月2回の定期的な面会・外出・外泊と夏季・冬季における1週間の長期外泊を実施した。

また、家庭訪問を実施してのアフターケアや、児童相談所と保護者との間を仲介し交流に結び付けたケースもあった。

交流前は、保護者に施設や学校等での様子（幼児や低学年児は担当職員との交流ノートを活用）を伝え、交流後は、家庭での様子を確認するとともに、面談を希望する保護者から個別に子どもの養育や今後の交流について相談を受けた。

その結果、家庭引き取りとなったケースが1家庭1名、交流を開始したケースが9家庭9名であった。

なお、家庭状況の悪化等により交流を一時停止したケースは2家庭2名であった。

3 自立支援計画

子どもの権利を保障し適切な養育を行うため、一人ひとりの子どもの心身の発達と健康の状態及びその置かれた環境を的確に把握・評価（アセスメント）し、養育支援と家庭復帰支援からなるケアプランを作成した。

「つながる力」、「挑戦する勇気の力」、「能力」、「かけがえのない自分を認める力」の4項目を高める支援を軸に、医療面、心理面、ファミリーソーシャルワークなど、具体的な支援内容を設定し、エビデンスに基づいた養育支援に努めた。

子どもが納得した上で作成されたケアプランは、子ども自身が目標達成に向けて前向きに取り組むことができ、自立に向けての支えとなるものである。

4 権利擁護

(1) 人権擁護と人権侵害の防止

子どもたちの人権を守り、子どもたちが安心して生活が営めるよう、静岡県児童養護施設協議会主催の権利擁護推進研修会への職員の参加、「懲戒に係る権限の濫用禁止（平成10年2月18日）」及び「被措置児童等虐待対応ガイドライン（児童福祉法第33条の10）」の周知と「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」による自己点検、投書箱「こどもの声」の設置などにより、人権擁護と人権侵害の防止に努めた。

(2) 被措置児童等虐待の防止

子どもたちに対する虐待や虐待を疑わせる行為、或いは虐待と受け止められる行為の防止について徹底を図るため、グループ会議の議題に取り上げ、加えて職員会議で再確認する場を設けて職員全体で被措置児童等虐待防止に取り組んだ。

児童の逸脱行動には複数の職員で対応し、虐待を疑われる状況が発生しないよう努めた。

また、投書箱「こどもの声」を設置することで子どもたちからの直接的な訴えができる環境を用意し、安心・安全で透明性の高い養育を心掛けた。

5 事故防止と安全対策

災害時における児童の安全を確保し被害の軽減を図るため、消防設備機器等の取扱いを学ぶとともに、火災・地震を想定した定期的な通報・消火・避難訓練を実施した。

施設設備に起因した事故や災害等を未然に防止するため、建築基準法等に基づいた建築設備定期検査、消防設備点検、電気設備点検、貯水槽点検・清掃などを実施した。

今年度は、幼児の転倒による前歯欠損と高校生の夜間熱傷（飲み物を作るためカップに熱湯を入れる際）による2件の事故が発生した。また、事故には至らなかったものの、児童間のトラブル等101件のヒヤリハットが発生した。

事故やヒヤリハットのリスク要因を分析し、職員間で共有するとともに、子どもたちへの指導や対策を講じることにより、事故の未然防止に努めた。

6 感染症対策

新型コロナウイルス感染症に関しては、児童5名、職員4名が感染した。

インフルエンザに関しては、児童23名、職員11名が感染した。

児童の感染が確認された際は個室で隔離・静養を行い、その他の児童もグループ間の交流を控える等、施設内での感染拡大防止に努めた。

7 地域交流と地域支援

(1) 地域との交流

改修工事（2年目）に伴い、限られた環境であったが、地域に開かれた施設としてグラウンドや楓ホールを開放するとともに、町内会との防災訓練や、子ども会行事を含む町内行事に積極的に参加し交流を深めた。

また、子どもたちの学習やイベントなどを支援するボランティアを積極的に受入れた。

(2) ショートステイの受入れ等の地域支援

保護者の疾病等の理由により、家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童を入所させ保護を行った。今年度のショートステイは本体施設の大規模修繕工事の影響もあり、1ケース、7日であった。

また、近隣大学への講師の派遣や関係機関・団体の施設見学について、可能な限り対応した。

8 職員の専門性の向上

被虐待児の入所が半数を超え、支援困難なケースや発達障害を有する児童が増加しており、養育を担う職員のより高い専門性が要求されている。

また、地域小規模児童養護施設等のグループホームや本体施設の小規模ユニットにおいては、職員一人ひとりの力量が問われ、知識・技術・経験に裏打ちされた養育が必要とされる。職員のスキルアップを図り、専門性を高めるため、全国児童養護施設協議会等の関係団体主催の専門研修に参加すると共に、職場内研修では CARE プログラムやコモンセンス・ペアレンティング習得に加え、スーパーバイザー（児童相談所 OB）による経験年数別

(初任、2,3年目、中堅)の研修や実践に即したロールプレイによるスキルアップ研修を行った。

9 施設の運営

(1) 会議・委員会等の開催

子ども一人ひとりの養育の向上と円滑な施設運営を図るため、施設内における各種会議や委員会を開催するとともに、関係機関との連絡会を開催した。

○施設内の各種会議

名称	開催回数	内容
運営会議	12	施設の運営方針等重要事項、課題等の検討
職員会議	11	施設運営に関わる事項（運営・指導方針、行事予定、提案事項等）の調整、周知
グループ会議	11	児童の生活支援等グループ運営事項（運営計画・自立支援計画・児童処遇・行事等）の調整
ケース検討会議	9	支援及びケアプラン内容の評価及び協議・検討
ケース会議	随時	ケースの支援・進路方針等の協議調整
朝会	毎日(日-祝除く)	日々の連絡調整
昼会	毎日(土日祝除く)	日々のケースの共有
サービス向上推進会議	10	第三者評価結果に対する改善事項の協議調整
食生活委員会	11	食を通じた健康・衛生・嗜好を知る機会の提供
性教育委員会	11	性教育の実践
広報委員会	11	広報誌の発行、HPの更新等の調整
防災対策委員会(防災会議)	12	消防計画の委員会審議事項の協議調整、防災訓練の実施
衛生委員会	12	従業員の健康被害の防止、健康保持増進
苦情解決第三者委員会	1	第三者委員との定期協議
養保連絡会	4	児童養護施設と保育所との連携業務の調整

○関係機関との連携

児童相談所、幼稚園、小中高等学校、里親家庭支援センター など

(2) 人事・労務・健康管理

ア 職員の確保

措置費加算対象の基幹的職員、心理療法担当職員 2 名、里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員、職業指導員、看護師、学習指導員、特別指導員、地域小規模児童養護施設等バックアップ職員を加配し、養育・支援体制の充実を図った。

また、保育士及び児童指導員については、ホームページへの求人の掲載、大学等への求人票の提出、インターンシップの受入れ、求人サイトの活用により、4名の職員（うち新卒者3名）を採用した。

イ 職員の健康の維持

本年度より産業医及び衛生管理者を配置し、衛生委員会、ストレスチェックを実施した。また、勤怠管理システムにより、勤務シフトや勤務時間を管理、長時間労働の是正に努め、年 2 回の健康診断の実施やインフルエンザの予防接種、リフレッシュ休暇（年 2 回の 4 連休）の取得促進などにより、職員の心身の健康の維持・増進を図った。

(3) 施設・設備の保全

安全で快適な生活環境と施設機能の維持・耐久性の確保のための保守・点検を行い、故障・破損した施設・設備の補修、備品の買い替え等を行った。本体施設においては大規模修繕工事期間のため、補修は最低限に控えるとともに、工事による不便な状況を少しでも快適に暮らすことができるよう環境整備に努めた。

○施設・設備（建物以外の基本財産、固定資産に当たるもの及び 30 万円以上の修繕等）

- ・スライドハンドル式移動ラック
- ・大規模修繕工事設備備品（冷蔵庫、ソファ）
- ・職員室等物品（ユニットデスク、PC 保管庫、メールボックス、両袖デスク、木製書庫、木製ロッカー）
- ・ガス衣類乾燥機
- ・敷地内舗装補修工事

(4) 施設運営の質の向上

令和 6 年 11 月に第三者評価を受審した。前回（令和 3 年度）受審時の結果に基づき、児童養護施設運営指針に掲げられている目指すべき状態に近づけられるよう、サービス向上推進会議において課題改善に努めた結果、多くの項目で高い評価が得られた。

(5) 福祉専門職養成校実習生の受入れ

県内外の大学、短期大学、専門学校の福祉専門職養成校に在籍する学生 17 人の施設実習を受け入れ、福祉分野への就労を志す者の養成に寄与した。

また、児童福祉施設業務を体験し、知識を深めたいとする学生についても、児童のプライバシーの保護と安全に十分配慮しながら 5 人をインターンとして受け入れた。

〈実習〉

（単位：校、人、日）

区分	保育実習Ⅰ	保育実習Ⅲ	ソーシャルワーク実習	計
実習校	4	1	2	7
実習生	11	2	4	17
実習延日数	114	14	90	218

10 広報活動の推進

開かれた施設運営を目指すと共に、より多くの方々に施設の取り組みを知っていただくため、広報誌「メープルスマイル」を年 2 回発行、ホームページを月 1 回更新することによ

り、子どもたちの生活の様子などを発信した。

11 里親支援

里親家庭への訪問及び電話・メール相談、児童相談所を含む里親支援機関との連携、里親認定前研修の講義・実習を行い、静岡ホームで生活する子どもたちのニーズについて共有することで支援に繋げた。また、今年度は静岡市里親家庭支援センターの業務の一つであるフォスタリング・チェンジ・プログラムヘファシリテーターとして里親支援専門相談員を派遣し、里親養育の質の向上に協力した。

また、子どもたちのショートルフラン（週末里親）利用について、児童相談所や里親支援機関と協働し、子どもの希望が実現されるように努めた。

＜相談支援＞

（単位：件）

訪問	来園・面接	電話・メール	計
0	6	24	30

＜里親認定前・更新研修＞

（単位：人）

認定前研修		更新研修
講義	実習	
18	6	3

＜ショートルフラン里親利用状況＞

（単位：人、日）

利用実児童数	延べ利用児童数	延べ利用日数
19 （うち定期的利用 13）	119	349

12 施設の小規模・地域分散化の推進

施設の小規模化、地域分散化を目的とし令和6～7年度に実施した本体施設の小規模ユニットケア化に向けた大規模修繕工事が完了し、すでに設置している4か所の地域小規模児童養護施設等を含め「できる限り良好な家庭的環境」において子どもたちを養育できる体制が整備された。

区 分	請負業者	金 額	備 考
設計監理業務	(株)金丸建築設計事務所	23,980,000 円	基本設計 ⑤ 4,180,000 円
			実施設計 ⑥ 12,100,000 円
			監理 ⑦ 7,700,000 円
大規模修繕工事	(株)佐藤工務店	584,100,000 円	⑥40% 233,640,000 円
			⑦60% 350,460,000 円

※設備整備費等を除く。

13 児童自立生活援助事業(Ⅱ型)の実施

児童養護施設の高機能化及び多機能化・機能転換を推進するため、令和6年4月1日付
けで「静岡ホーム児童自立生活援助事業所(Ⅱ型)」を設置し、年齢超過により児童養護施設
への措置を解除された者への継続支援を行った。

区 分	大学生	短大生	専門学校生	その他	計
人 数	1	0	2	0	3人

《附属明細書》

1 入退所状況

(1) 入退所状況

(単位：人)

区分	令和6 年度末	入 所							退 所						令和7 年度末
		家庭	乳児院	知的障害 児施設	児童自立 支援施設	里親	その他	計	家庭	グループ ホーム	Ⅱ型 移行	自立	その他	計	
男	16	0	1	0	1	1	0	3	1	1	0	0	0	2	17
女	27	3	0	1	0	0	0	4	0	0	2	1	0	3	28
計	43	3	1	1	1	1	0	7	1	1	2	1	0	5	45

(2) 月別在籍児童数

(単位：人、％)

区分	定員	初日在籍児童数												充足率	
		施設別					学齢別								計
		本園	のぞみ	めぐみ	ひかり	なごみ	幼児	小学生	中学生	高校生	大学等	その他			
7年4月	62	24	5	6	5	6	6	11	12	12	5	0	46	74.2%	
5月	62	23	5	6	5	6	6	11	12	12	4	0	45	72.6%	
6月	62	24	5	6	5	6	6	11	13	12	4	0	46	74.2%	
7月	62	24	5	6	5	6	6	11	13	12	4	0	46	74.2%	
8月	62	24	5	6	5	6	6	11	13	12	4	0	46	74.2%	
9月	62	25	5	6	5	6	6	12	14	11	4	0	47	75.8%	
10月	62	25	5	6	5	6	6	12	14	11	4	0	47	75.8%	
11月	62	24	5	6	5	6	6	12	14	11	3	0	46	74.2%	
12月	62	23	5	6	6	6	6	13	14	11	2	0	46	74.2%	
8年1月	62	23	5	6	6	6	6	13	14	11	2	0	46	74.2%	
2月	62	23	5	6	6	6	6	13	14	11	2	0	46	74.2%	
3月	62	23	5	6	6	6	6	13	14	11	2	0	46	74.2%	
計	744	285	60	72	64	72	72	143	161	137	40	0	553	74.3%	

(3) 一時保護児童数

(単位：人)

区分	7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年1月	2月	3月	計
児童数	1	0	1	1	2	1	0	2	1	0	0	1	10
延人数	1	0	2	3	18	12	0	29	12	0	0	2	79

*実人員は9人

2 入所児童の状況

(1) 年齢・男女別児童数

(令和8年3月1日在籍児童：人)

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳以上	総数	平均年齢
男	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	1	1	2	1	2	2	2	2	18	13.1
女	0	0	0	1	0	2	0	2	1	3	3	0	1	3	5	3	0	4	28	13.0
計	0	0	0	1	1	4	1	2	2	3	4	1	3	4	7	5	2	6	46	13.1

(2) 措置時の年齢

(令和8年3月1日在籍児童：人)

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	総数	平均年齢
男	0	5	1	1	1	0	2	1	0	0	1	2	2	0	2	0	0	0	18	7.11
女	0	7	1	4	4	0	2	2	1	1	0	1	3	1	1	0	0	0	28	6.11
計	0	12	2	5	5	0	4	3	1	1	1	3	5	1	3	0	0	0	46	7.4

(3) 在籍児童の在所要期間

(令和8年3月1日在籍児童：人)

区 分	児童数	区 分	児童数	区 分	児童数
1 年未満	7	7 年以上 8 年未満	0	14 年以上 15 年未満	1
1 年以上 2 年未満	5	8 年以上 9 年未満	3	15 年以上 16 年未満	3
2 年以上 3 年未満	4	9 年以上 10 年未満	3	16 年以上 17 年未満	0
3 年以上 4 年未満	3	10 年以上 11 年未満	2	17 年以上 18 年未満	0
4 年以上 5 年未満	9	11 年以上 12 年未満	2	18 年以上	0
5 年以上 6 年未満	2	12 年以上 13 年未満	1	計	46
6 年以上 7 年未満	1	13 年以上 14 年未満	0	平均在所要期間	5 年 8 月

(4) 出身地別児童数

(令和8年3月1日在籍児童：人)

措置機関	静岡県	静岡県								浜松市	計
市町	静岡市	沼津市	島田市	富士市	焼津市	藤枝市	袋井市	牧之原市	吉田町		
人数	32	0	0	2	3	5	0	1	2	1	46
13											

(5) 措置理由別児童数

(令和8年3月1日在籍児童：人、％)

入所理由（主訴）	人数	割合	入所理由（主訴）	人数	割合
父母の死亡	1	2.2	父母の放任怠惰	12	26.1
父母の行方不明	0	—	父母の虐待	10	21.7
父母の離婚	0	—	父母の養育拒否	2	4.3
父母の不和	1	2.2	棄児	0	—
父母の拘禁	0	—	破産等経済的理由	3	6.5
父母の入院	3	6.5	児童の監護困難	4	8.7
父母の就労	1	2.2	その他	5	10.9
父母の精神障害	4	8.7	計	46	100.0

(6) 被虐待児童数 (令和8年3月1日在籍児童：人、％)

虐待の種類	人数	割合
身体的虐待	11	23.9
性的虐待	0	—
ネグレクト	17	37.0
心理的虐待	2	4.3
実人員	30	65.2

(7) 入所経路

(令和8年3月1日在籍児童：人、％)

区分	家庭	乳児院	児童養護施設	児童心理治療施設	児童自立支援施設	里親	母子生活支援施設	その他	計
人数	23	11	0	1	5	4	2	0	46
割合	50.0	23.9	—	2.2	10.9	8.7	4.3	—	100.0

(8) 保護者の状況

(令和8年3月1日在籍児童：人、％)

区分	実父母あり	実父のみ	実母のみ	実父と養(継)母	実母と養(継)父	祖父母	里親	なし	不明	計
人数	16	3	22	1	2	2	0	0	0	46
割合	34.8	6.5	47.8	2.2	4.3	4.3	—	—	—	100.0

(9) 児童の心身の状況

(令和8年3月1日在籍児童：人)

健全	23	心的外傷後ストレス障害（PTSD）	0
身体虚弱	0	反応性愛着障害	3
肢体不自由	1	注意欠如多動症（ADHD）	7
視聴覚障害	0	限局性学習症（LD）	3
言語障害	1	自閉スペクトラム症（ASD）	12
知的障害（IQ69以下）	5	適応障害	0
てんかん	0	その他	3

*医師の診断によるもの 重複あり

(10) 児童の罹患傾向

(令和8年3月1日在籍児童：人)

ほとんど病氣しない	15	ぜんそく	2
ひきつけをすることがある	0	食物アレルギー	1
下痢をしやすい	2	その他のアレルギー	5
よく熱を出す	0	花粉症	18
風邪をひきやすい	1	その他	8
湿疹が出やすい	4		

*重複あり

(11) 退所児童の在所期間

(令和7年度退所児童：5人)

区 分	児童数	区 分	児童数	区 分	児童数
1年未満	0	7年以上 8年未満	0	14年以上 15年未満	0
1年以上 2年未満	0	8年以上 9年未満	0	15年以上 16年未満	1
2年以上 3年未満	1	9年以上 10年未満	0	16年以上 17年未満	1
3年以上 4年未満	0	10年以上 11年未満	1	17年以上 18年未満	0
4年以上 5年未満	0	11年以上 12年未満	0	18年以上	0
5年以上 6年未満	1	12年以上 13年未満	0	計	5
6年以上 7年未満	0	13年以上 14年未満	0	平均在所期間	10年3月

(12) 中高生の進路

(令和8年3月末：人)

区分	措置継続	措置解除	計
中学生	静岡北高等学校 2人 静岡大成高校 2人 焼津高校 駿河学院専門学校 県立特別支援学校高等部	—	7
高校生	東海大学 和光大学 静岡英和学院大学短期大学部	就労（グループホーム）	4

3 性教育の実施内容

対象児童	内容	実施回数
幼児	いいタッチ・わるいタッチ プライベートゾーン プライベートエリア 不審者と出会ったらどうするか	1
小学1～3年生	いいタッチ・わるいタッチ プライベートゾーン プライベートエリア 回避行動（実践含む）	2
小学4～6年生	プライベートゾーン プライベートエリア 回避行動 洗体、洗髪の方法 二次性徴 ナプキンのつけ方（女兒のみ）	4
中学生	身体の仕組み 二次性徴 思春期の変化 身体についての相談	4
高校生	性欲のコントロール・性交 妊娠・避妊・中絶 性的同意	4

4 行事の実施状況

(1) 園企画行事

(単位：人)

月日	行事名	グループ名	児童数
4/19	新入学児童 ディズニーランド外出	男子 めぐみ ひかり なごみ	8
5/3	GW 在園児外出 「デニーズ二番町店」	幼児	4
5/3	GW 在園児外出 「むさしの森珈琲」	ひかり	2
5/3	GW 在園児外出「ガスト 安西店」	女子	1
5/4	GW 在園児外出「シネシティザート」	小学生	2
5/5	GW 在園児外出「さわやか 瀬名店」	めぐみ	5
5/5	GW在園児外出「ガスト 清水七ツ新屋店」	なごみ	5
5/5	GW 在園児外出「デニーズ 二番町店」	のぞみ	1
5/6	GW在園児外出「デニーズ 二番町店」	男子	5
5/3～6	GW在園児外出「シネシティザート」	全グループ	23
6/8	グループ 行事「浜名湖体験学習施設ウォット」	ひかり	5
6/21	グループ 行事「日本平動物園」	幼児	6
6/22	グループ 行事「ホップアップサーカス&マジック 清水店」	めぐみ	6
7/6	グループ 行事「ららぽーと沼津」	女子	3
7/21	グループ 行事「西ヶ谷総合運動場テニスコート」	ひかり	5
7/30,31	グループ 行事「黒川キャンプ場」	めぐみ	6
7/31	グループ 行事「村松さんご自宅」	女子	3
8/1	グループ 行事「村松さんご自宅」	ひかり	5
8/3,4	グループ 行事「黒川キャンプ場」	男子	6
8/6	グループ 行事「さおしん」	のぞみ	5
8/18,19	グループ 行事「大久保キャンプ場」	小学生	5
8/19	グループ 行事「フルーツ公園」	めぐみ	6
8/21	グループ 行事「シネシティザート」	のぞみ	5
9/15	グループ 行事「大浜公園プール」	めぐみ	4

9/20	大阪関西万博①	女子 のぞみ ひかり	12
9/21	大阪関西万博②	小学生 なごみ	12
9/23	大阪関西万博③	幼児 男子	11
10/18	グループ 行事「伊豆三津シーパラダイス」	幼児	6
11/3	グループ 行事「BiVi 藤枝 シネプレーゴ」	小学生	6
11/9	グループ 行事「磐田市香りの博物館」	のぞみ	3
11/15	グループ 行事「まかいの牧場」	ひかり	5
11/23	グループ 行事「ラウンドワンスタジアム浜松店」	男子	2
12/6	グループ 行事「Jリーグ招待」	男子	2
12/13	グループ 行事「22 世紀の丘公園・はま寿司掛川店」	幼児	6
12/26	グループ 行事「感動の肉と米&でみぐら亭」	めぐみ	6
12/27	グループ 行事「ドリームブラザ&ココス清水店」	女子	4
1/1～3	在園児外出 初詣	全グループ	36
1/11	グループ 行事「熟成焼肉 いちばん」	なごみ	6
2/1	グループ 行事「ラウト・ワスダ アム浜松店&ガスト安西店」	小学生	6
2/7	グループ 行事「浜松こども館」	のぞみ	2
2/18	グループ 行事「スノーパークイエティ」	幼児	6
2/8	グループ 行事「伊豆テディベアミュージアム」	なごみ	6
2/28	グループ 行事「やませいちご農園」	ひかり	6
3/1	グループ 行事「てんとう虫パーク」	のぞみ	5
3/1	グループ 行事「シネシティザート」	小学生	6
3/13	グループ 行事「マクドナルド清水ベイドリーム」	なごみ	6
3/19	グループ 行事「シェーキーズ マークイズ店」	幼児	6
3/14.22	グループ 行事「シネシティザート」	幼児	6
3/23	グループ 行事「焼肉キング 流通通り店」	めぐみ	6
3/23	グループ 行事「しゃぶ葉 静岡店」	女子	4
3/23	グループ 行事「ゆず庵 静岡インター店」	ひかり	6
3/24	グループ 行事「焼肉いちばん」	のぞみ	5
3/25	グループ 行事「お好み焼き本舗 静岡瀬名店」	男子	5
53回			延 324 人

(2) 招待・訪園行事

月日	行事名	グループ名	児童数
4/6	まるたけ幼稚園「けいごまつ」	全グループ	41
4/12	Jリーグ招待	小学生	2
4/20	Jリーグ招待	ひかり	2
5/25	Jリーグ招待	男子	3
6/7	アサカツシユ静岡「テニスマスター」	全グループ	35
6/21	アサカツシユ静岡「ワークショップ①」	全グループ	17
6/28	Jリーグ招待	女子	2
7/5	アサカツシユ静岡「ワークショップ②」	全グループ	16
7/19	安倍川花火大会	小学生・のぞみ・めぐみ・ひかり・なごみ	11
7/13	スイカ割り招待	幼児	3
7/20	あいネットサービス「ピュール」	幼児	1
8/16	Jリーグ招待	男子	3
8/25	夏休みこども映画会招待	小学生・のぞみ・めぐみ・ひかり・なごみ	10
8/30	静岡翼ライオンズ 夏祭り	全グループ	43
8/31	Jリーグ招待	のぞみ	2
10/4	静岡ライオンズ 黄金の湯	全グループ	26
11/1	一日里親体験「みかん狩り」	幼児	6
11/6	村上開明堂「秋の福祉」コンサート招待	女子	2
11/9	Jリーグ招待	男子	2
11/23	安西学区運動会	小学生 幼児 のぞみ	8
12/14	えがおササガ「D'エト 絵本読み聞かせ	幼児 小学生	9
1/31	友の会友の家	小学生 ひかり のぞみ めぐみ なごみ	12
2/15	TOKAI HD キッチンカー	全グループ	44
3/7	村上開明堂 こども食堂招待	幼児以外全グループ	28
24回			延 328人

(3) 県養協行事

月日	行事名	結果	児童数
R7.5/10	児童文化奨励絵画展表彰式	金賞 1 名、銅賞 2 名、特別奨励賞 1 名、佳作 4 名	8
8/21	夏季スポーツ交流会	小学生低学年の部 優勝 小学生高学年の部 第三位 中高生の部 敢闘賞	7
11/30	オセロ大会	U18 の部 優勝 U12 の部 敢闘賞	8
R7.1/18	冬季スポーツ交流会	小学生女子の部 準優勝、フェアプレー賞	10

5 ボランティアの活動

(単位：人)

活動内容	協力者	実人数	延人数
余暇支援	大学生（常葉大学）	1	4
	一般	3	42
学習指導	常葉大学ボランティアサークル「つくしんぼ」	11	69
環境整備	一般	1	39
	御前崎市更生保護女性会	14	14
散髪	出張散髪	19	94
	チェリー床や	2	8
	ビューティー高田	4	7
	ユリ美容室	10	11
	美容室 Mu	7	11
		72人	延 299 人

6 心理対応

(1) スーパービジョン

(単位：人)

年月日	対象児童	テーマ・内容	講師	参加職員数
4/25	5 名	昨年度のケースの振り返り	三田 Dr.	19
5/21	5 名	昨年度のケースの振り返り	奥村 Dr.	15
6/20	小 5 女児	本児の発達的特徴、今後の支援方針	三田 Dr.	19
7/16	中 2 女児	特徴の医学的捉え、今後の支援方針	奥村 Dr.	19
9/17	中 3 女児	特徴の医学的捉え、今後の支援方針	奥村 Dr.	13
9/26	小 4 女児	本児の発達的特徴、今後の支援方針	三田 Dr.	18
10/17	小 4 女児	本児の発達的特徴、今後の支援方針	三田 Dr.	16
11/19	高 1 男児	特徴の医学的捉え、今後の支援方針	奥村 Dr.	16
1/21	高 1 女児	特徴の医学的捉え、今後の支援方針	奥村 Dr.	19
2/20	小 4 女児	本児の発達的特徴、今後の支援方針	三田 Dr.	17
3/4	小 6 男児	特徴の医学的捉え、今後の支援方針	奥村 Dr.	20
	計 11 回			延 191 人

* 子どもや家族への支援向上を目指す現場重視の事例検討

講師：奥村 Dr.（精神科医）、三田 Dr.（小児科医）

(2) グループセラピー

グループセラピー	対象児童	実施回数	目的・内容
感覚遊び ワークショップ	希望児童	3／年	乳幼児期に十分に遊ぶことのできなかった子どもたちへ、遊びの中でも初歩的と言える感覚遊びを楽しむ場を、年齢を問わず提供する。
変身セラピー	希望児童	3／年	特別な衣装やアクセサリ等を用いて、子どもたちが自由に変身できる場を提供する。変身を通じて、子どもたちが抱える傷つきやねじれに働きかけ、子どもたち自ら癒す力を得ることを目的とする。
グループ 心理療法	年長児童 3名	10回／年	就学に向けてひらがなや数字に馴染みを持たせる遊びを実施しながら、集団で目的をもって行動する経験を積むことを目的とする。
	小学4年 児童4名	9回／年	ボードゲームで遊びながら、集団で最後まで楽しく遊ぶための立ち回りやスキル、感情のコントロールを経験から学ぶことを目的とする。

(3) プレイセラピー

対象児童	実施回数	実施時間	目的・内容
8人	3回／月	45分×3人	遊びを通して関わることで、子どもの不安全感や怒り、劣等感、寂しさ等の感情を緩和・軽減させる。 講師から児童支援に関する助言をいただき、児童相談所(児童心理司)を交えた3者で密な連携を図る。

*講師：松平教授（静岡県立大学短期大学部）

(4) その他心理療法等（単位：回）

個別面接	生活場面面接
137	720

7 児童の健康管理

(1) 月別受診状況

(単位：人)

年月	外科 整形外科	内科 小児科	眼科	歯科	皮膚科	耳鼻科	神経科 その他	計
7年4月	2	18	2	3	5	3	4	37
5月	3	18	5	4	7	0	7	44
6月	1	5	8	4	6	6	8	38
7月	4	7	6	2	1	0	5	25
8月	2	6	1	1	1	0	5	16
9月	3	14	0	6	1	0	2	26
10月	5	11	0	4	1	6	3	30
11月	4	4	1	3	3	1	7	23
12月	6	5	0	4	3	2	6	26
8年1月	5	11	0	7	1	2	6	32
2月	10	18	0	0	0	2	7	37
3月	5	12	0	4	2	3	7	33
計	50	129	23	42	31	25	67	367

(2) 健康診断・予防接種

(単位：人)

区 分		実施日	対象児童	人数	備考
健康診断		R7.8/22	幼児～高2	41	
		R8.3/24	幼児～高3	43	
予 防 接 種	日本脳炎	R8.2/27 ほか	小学生	3	2期
	二種混合（ジフテリア・破傷風）	R8.2/27 ほか	小学生	3	2期
	HPV ワクチン	R8.2/26	小学生	1	
		R8.3/19 ほか	高校生	2	
	MR	R7.10/29 ほか	高校生	2	
	インフルエンザ	R7.11/6 ほか	中学生	5	
		R7.11/13	小学生	1	

8 新型コロナウイルス等感染者数

区 分	児 童	職 員
新型コロナウイルス感染症	5 人	4 人
インフルエンザ	23 人	11 人

9 家族（保護者）支援等の状況

(1) 家族（保護者）との交流状況

（令和8年3月1日在籍児童：人）

交流あり				交流なし	計
外泊	外出	面会	電話・手紙		
16	10	9	2	9	46

(2) 家族（保護者）との交流頻度

（単位：人）

区分	月1回以上	年2回～11回	年1回位	計
外泊	7	8	1	16
外出	0	9	1	10
面会	0	3	6	9
電話・手紙	0	1	1	2

(3) 一時帰省状況

（単位：人）

区分	期間	児童数	備考
夏季	8/9～17	28	夏季・冬季ともに個別のケース対応により期間長短あり
冬季	12/27～1/3	26	

(4) ショート・ルフラン里親

（単位：人、日）

区分	7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年1月	2月	3月	計
児童数	9	10	9	9	11	9	11	11	10	11	9	10	119
延日数	31	31	27	23	45	23	26	30	24	31	23	35	349

10 子どもの意向・苦情（こどもの声への投書）

（単位：件）

要望	改善提案	苦情	感謝	その他	計
16	0	0	1	8	25

11 防災・安全対策実施状況

(1) 教育

（単位：人）

月日	教育内容	参加児童数	参加職員数
5/1	消防設備（非常用放送設備・自動火災報知設備）取扱説明	0	8
6/21	「避難情報」と「防災気象情報」について説明 防災教育用DVD「津波からにげる（アニメ）」視聴	25	8
7/17	自衛隊 防災講話及び非常食体験	25	12
	計3回	延50人	延28人

(2) 防火・防災訓練

(単位：人)

月日	訓練名称	想定災害	実施 時間帯	訓練内容						
				通報	初期 消火	消火 訓練	避難	その他	参加人員	
									児童	職員
4/29	避難訓練	地震・火災	日中		○	○	○		7	5
5/17	避難訓練	地震・火災	日中		○	○	○		18	6
6/21	避難訓練	地震	日中	○	○	○	○	自衛消防訓練通知 防災 DVD 視聴	10	4
7/19	避難訓練	土砂災害	日中				○		13	5
8/18	避難訓練	地震	日中				○	情報伝達訓練（職員）	15	5
9/15	避難訓練	地震	日中				○		16	6
10/19	避難訓練	火災	日中		○	○	○		12	6
11/21	社会福祉施設 防災の日訓練	地震・火災	日中	○	○	○	○	消防署立会い 避難救助袋使用訓練 保育学園と合同訓練	15	11
12/20	避難訓練	火災	夜間		○	○	○		14	6
1/17	避難訓練	地震・火災	夜間		○	○	○		21	8
2/23	避難訓練	地震・火災	日中		○	○	○		15	7
3/22	避難訓練	火災	日中		○	○	○		12	4
	計 12 回								168	73

(3) 点検・検査

項目	月日	
消防用設備点検	5/1	11/5
空調設備点検・清掃	5/23	10/20
貯水槽点検・清掃	7/8	
建築設備定期検査（建築物・建築設備・防火設備）	10/20	
簡易専用水道検査	11/20	
電気設備年次点検	3/9	

12 関係機関等との連携

(1) 児童相談所との連携

連絡会			その他
月日	児童相談所	内容	
5/26 6/16 10/28 11/10	静岡市児童相談所	措置児童の情報交換 進路、家庭引き取り、里 親委託、措置変更など	個別ケースの連絡・面接・ ケース検討会等の実施
5/30 11/13	静岡県(中央・富士)児 童相談所		

(2) 幼稚園・学校との連携

幼稚園・学校名	月日	内 容
かえで幼稚園	2 回／年	新入园児のホームでの生活の様子等
安西小学校	6 回／年	児童の学校での様子やホームでの生活等の情報交換
井宮小学校	随時	ケース検討会及び児童の学校での様子やホームでの生活等の情報交換
末広中学校	随時	児童の学校での様子やホームでの生活等の情報交換
籠上中学校	随時	ケース検討会及び児童の学校での様子やホームでの生活等の情報交換
各高等学校	随時	学期ごとの面接、進路面接など

13 地域交流と地域支援

(1) 地域交流

(単位:人)

月 日	内 容	参加児童数	参加職員数
R7. 4/18	井宮町子ども会歓迎会・進級祝い	2	1
5/15	籠上側溝掃除	0	1
5/24	神明町こども会総会	0	1
7/21	井宮町子ども会交流会	2	1
7/24~28	井宮町子ども会ラジオ体操	2	2
8 /9	井宮町子ども会町内夏祭り	22	8
8/22~24	井宮町子ども会ラジオ体操	2	2
8/24	籠上公民館清掃	1	1
9/7	浅間神社みこし祭り	3	1
9/14	神明町祭典	2	1
10/11	籠上白髭神社秋祭り	6	3
10/19	静岡市区民運動会	2	1
11/16	神明町防災訓練	3	1
11/23	安西学区大運動会	10	4
11/30	井宮町防災訓練	5	0
12/7	材木町防災訓練	2	1
12/15	籠上クリスマス会	1	1
R8. 1/18	神明町資源回収	3	1
1/25	籠上学区清掃	1	2
1/31	籠上子供会総会	0	1
2/1	籠上子ども会豆まき	2	1
2/1	井宮町もちつき大会	8	3
2/28	井宮町子ども会卒業生退会式	2	1
23 回		延 81 人	延 39 人

(2) 地域支援

ア ショートステイ受入れ

(単位：人)

区分	7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年1月	2月	3月	計
児童数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
延人数	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

イ レスパイト受入れ

(単位：人)

区分	7年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年1月	2月	3月	計
児童数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ウ 施設開放

月日	団体	内容	場所
R8.3/1	井宮町自治会	町内親睦グランドゴルフ大会	グラウンド

14 職員研修実施状況

(1) 職場内研修 (27 回)

ア 全職員 (9 回)

月日	研修内容	講師
R7.5/7	措置費制度について	末吉係長
6/12	児童相談所の現状と課題	鈴木園長
7/9	児童虐待の現状と対応	鈴木園長
9/10	防犯講習会	静岡中央警察署 生活安全課 中村課長
10/9	社会的養護と里親	鈴木園長
11/14	キャリア支援セミナー	静岡キャリア形成 リスク支援センター 青野氏
12/11	子どもの権利擁護と施設内虐待	鈴木園長
R8.1/13	包括的暴力防止プログラムⅠ	静岡県立こころの医療センターCVPPP 前園氏 奈良氏
2/9	包括的暴力防止プログラムⅡ	

イ 新任職員 (14 回)

月日	研修内容	講師
R7.5/15、5/22	エピソード記述 1 (2.3 年目)	西田スーパーバイザー
6/17	CARE プログラム研修Ⅰ	静岡ホーム職員
6/27	CARE プログラム研修Ⅱ	
7/8	CARE プログラム研修Ⅲ	
7/3	被虐待体験を有する子どもへの対応 (新採)	西田スーパーバイザー
7/15	性教育研修会	静岡市児童相談所保健師
9/4、10/2	エピソード記述 2 (2.3 年目)	西田スーパーバイザー
11/6	子どもとの関わり方 (新採)	西田スーパーバイザー
R8.1/8、2/5	エピソード記述 3 (2.3 年目)	西田スーパーバイザー

月日	研修内容	講師
1/20	コモンセンス・ペアレンティング研修Ⅰ	静岡ホーム職員
2/16	コモンセンス・ペアレンティング研修Ⅱ	
3/17	新任（入職前）研修1	静岡ホーム職員
3/24	新任（入職前）研修2	
3/19	公文学習新任職員研修	公文教育研究会法人事業部

ウ 中堅職員（2回）

月日	研修内容	講師
R7.6/7	社会的養護をうける子どもの成長モデル	西田スーパーバイザー
10/23	自分の感じ方（癖）を理解する	

エ リーダー職員（2回）

月日	研修内容	講師
R7.7/10	チームとは	西田スーパーバイザー
12/4	子どもとの関わり（セルフチェックシート）	

(2) 職場外研修（20回）

ア 全社協・県社協等研修（14回）

（単位：人）

月日	研修会名	会場	参加職員数
R7.4/23 5/14 5/15	福祉職員キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	静岡市	1
8/1	安全運転管理者講習	静岡市	1
10/12 10/26 11/9 11/16 11/22 12/7 12/14	コモンセンスペアレンティング研修	ZOOM	1
12/13	アンガーマネジメント研修	静岡市	1
R8.1/30	児童自立生活援助事業スタッフ研修会	静岡市	2
2/19	磐田学園心理発達支援研修会	ZOOM	2

イ 全養協・県養協研修（6回）

（単位：人）

月日	研修内容	会場	参加職員数
6/10	県養協・県乳児協新任職員研修会	静岡市	4
9/9	県養協指保部会研修1	富士市	1
12/18	静岡県児童権利擁護推進研修会1	静岡市	2
R8.1/16	静岡県児童権利擁護推進研修会2	静岡市	1
1/18	養育・権利擁護セミナー	東京都	1
2/24 2/25	全国児童養護施設中堅職員研修会	東京都	2

15 実習生の受入れ

(単位：日、人)

区分	期間	日数	人数	実習校
保育実習Ⅰ	4/21～5/2	30	3	静岡産業技術専門学校
	5/26～6/8	12	1	静岡県立大学短期大学部(社会福祉学科)
	8/18～8/29	20	2	常葉大学 草薙キャンパス
	8/18～8/31	12	1	静岡県立大学短期大学(子ども学科)
	9/2～9/13	20	2	常葉大学短期大学
	2/20～3/3	20	2	常葉大学短期大学
保育実習Ⅲ	5/19～5/30	14	2	常葉大学 草薙キャンパス (1名は実習4日実施後に中止となる)
ソーシャル ワーク実習	6/2～7/6	35	1	日本総合研究所 社会福祉士養成所
	8/18～11/6	31	1	静岡英和学院大学(9/1～10/20休養)
	10/2～10/20	19	1	静岡英和学院大学
	2/18～2/22	5	1	静岡英和学院大学
計(延日数・実人員)		218	17	

16 インターンシップの受入れ

(単位：人、日、校)

参加者数	参加延日数	学校数	参加者の在籍校
5	10	4	常葉大学短期大学部、常葉大学、東京福祉大学、日本福祉大学

17 里親支援の状況

<里親会及び里親支援機関との連携>

月日	内容	参加児童数	参加職員数
6月、10月、2月(年3回)	支援機関会議	—	1
1/14	ケースカンファレンス	—	5
4/29 11/1	1日里親体験事業	12	4
9/14 11/13	ショートトルフランの調整	3	3
計8回		延15人	延13人

18 視察研修の受入れ

(単位：人)

月日	団体名	人数
6/20	静岡大学人文社会科学部社会学科	1
7/3	児童養護施設 清明寮	8
9/9	常葉大学短期大学部 保育科	15
11/26	御前崎市更生保護女性会	13
R8.2/4	児童養護施設 プティヴィラージュ	7
計5回		44人